

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 10 さいたま市立神田小学校
令和5年 2月1日発行 Tel (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

人は 人によって 人となる

校長 米玉利 優子

神田小学校の通学路にある梅の木がきれいな花を咲かせています。春まだ遠いという季節、雪中に早々つぼみを膨らませ、どんな花よりも早く春を伝えてくれる、寒苦に耐えて咲く梅を見ながら、私たちの人生もきっと同じだな、辛いことや苦しいことを乗り越えてこそ、強く美しい花が咲くのだなと思うと、自然と笑顔になり力がわいてきます。

始業式の朝、全学級の黒板には、担任から子どもたちへ3学期も共に頑張ろうという熱い思いを込めたメッセージが書かれていました。その中に、「今日は体育館で始業式があります。6年生の姿をしっかりと見て、6年生のようにお話をききましょう」という言葉がありました。3年ぶりに全校児童が体育館に参集し、3学期の始業式と1月末に生活朝会を実施しました。393名の子どもたちが体育館に集まり、整然と話を聴く姿からは、子どもたちの聴く気とやる気が感じられ、胸が熱くなりました。本来であれば、1～3年生を前列、4～6年生を後列にして実施しますが、6年生を前列の中心にして範を示してもらいました。約40分という短い時間でも、子どもたちは、6年生の背中を見て学びました。「話を聴く姿勢がすごくよかった」「話をしている人の方に体を向けて聴いていた」「6年生は頷きながら話を聴いていてびっくりした」「わかった時は大きな声で返事をしていてかっこよかった」「校長先生が質問したことすぐに手を挙げて、皆の前で堂々と話していてすごいなと思った」子どもたちの声です。人は 人によって 人となる と言いますが、教育とは何かという原点を子どもたちに見せてもらいました。どんな言葉でも伝えられない姿、どんな言葉も追いつかない空気が神田小学校の体育館にありました。

梅の花はただそこに咲いています。見る者の心もちによっては、輝かしくも寂しくも見えるかもしれません。6年生は、下級生に多くを語らず見る者の心に大切な宝を残してくれました。それはきっと、これまでの12年間、子どもなりに色々なことを考え、体験し、乗り越え、身につけたオーラのようなものかもしれません。まさに、神田小学校の6年生は辛苦に耐え、喜びを知る梅の花でした。きっと、この美しい景色が5年生の心に残り、最高学年となる準備をしていくに違いありません。感染症対策を万全に行いつつ、人とかがわる時を今まで以上に大切に、教職員一同、人間教師として子どもと向き合い、令和4年度のまとめをしていきたいと思えます。私たち大人も子どもから学び、多くの人とのかかわりを大切にしながら、どこかで、誰かの梅の花になれば…春の足音が少し近づいてくるような気がします。

保護者の皆様、並びに地域の皆様には、今月も子どもたちの心に栄養を与えるあたたかい声かけと変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。